

氏 名：木村美香

学位の種類：博士（看護学）

報告番号：甲第104号

学位記番号：博第102号

学位授与年月日：令和4年3月17日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：糖尿病性腎症を有する高齢患者の透析導入に伴う移行に関する見通しとその関連要因

Perspectives and Related Factors for the Transition with the Dialysis
in Elderly Patients with Diabetic Nephropathy

論文審査員：主査 井村真澄

副査 安部陽子（正研究指導教員）

副査 本庄恵子（副研究指導教員）

副査 遠藤公久

副査 岡田彩子

論文審査の結果の要旨

透析患者の平均在院日数は長く、その約7割は高齢者である。わが国の透析医療は血液透析に著しく偏り、糖尿病性腎症による透析導入患者への対応は、医療政策上、優先課題とされている。

一般的に、糖尿病が進行し糖尿病性腎症を発症すると、患者は糖尿病内分泌内科から腎臓病内科へ移る。本研究は、糖尿病性腎症を有する高齢患者の透析導入を円滑に進めるため、当事者が病期・診療科等の移行の見通しを持つことに着目し、メレイスの移行理論と文献検討から着想を得て実施された。

本研究の目的は「糖尿病性腎症を有する高齢患者の透析導入に伴う移行に関する見通しを測定する尺度」を開発し、見通しの関連要因を検証することであった。

研究者は、日本全国の血液透析を行う病院 1665 施設のすべてを対象とし、横断的自記式質問紙調査を精力的に実施した。研究協力への同意が得られた 118 施設の 1289 名へ質問紙を配布し、525 名より回答が得られ、502 名のデータの項目分析、探索的因子分析、確認的因子分析を行い、32 項目 6 因子構造の尺度の、信頼性・妥当性を検討した。また、496 名のデータを用いて、透析導入に伴う移行に関する見通しと、先行要因・結果要因との関連を共分散構造分析により検証した。

尺度の MacDonal's ω は尺度・下位尺度共に 0.70 以上であり、CFI は 0.955、RMSEA は 0.067 であった。研究結果は既知集団妥当性、基準関連妥当性があることを示唆した。先行要因として、看護師との相互作用と透析施設医療従事者の相談のしやすさが、見通しに関連した。さらに、見通しに、結果要因として、透析に関する自己効力感が関連した。共分散構造分析のモデルの適合度は、CFI が 0.822、RMSEA が 0.077 であった。

糖尿病性腎症を有する高齢患者の透析導入においては、病期、診療科、治療の場、生活様式の移行が連続または同時に生じるため、多くの困難が伴う。本研究は、この困難性を踏まえ、移行を円滑に進めるための、移行に関する見通しに焦点を当てた点に新規性がある。さらに、糖尿病性腎症による透析導入患者への対応は、医療政策上の優先課題であり、看護学の発展・社会への貢献度の点からも意義がある。

COVID-19 蔓延下において、全数調査に挑戦したこと、緻密に段階的手順を踏んで丁寧に尺度開発を行ったこと等は高く評価される。

また、移行前の「想像上の移行後の状態の意味づけ」が移行に影響を及ぼすことを明らかにしたこと、糖尿病患者としての療養経験の中で定着した固定観念を刷新するための看護介入の必要性について議論したこと、対象の療養支援の新たなアプローチの観点を提供したことは、今後の研究への発展性があると高く評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たすと判断され、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定された。